

真の民主主義を目覚めさせるために

ぴゅぴ

今、全国の断層調査に注目が集まっており、大飯原発でも年末に調査が検討されている。しかしなぜ大飯原発だけが運転したままでの調査なのか？運転中の断層調査は掘削箇所が制限され不十分になるだけでなく、危険を伴う。不安と理不尽な思いから、私たち市民グループは、大飯原発の断層調査は稼働を一旦停止して行うことを求める意見書の提出を要望し、地元議会に請願を出した。そしてこれが、先日の委員会において賛成多数で採択された。しかも、委員会審議の場に請願者代表である私は参考人として呼ばれ、説明を求められた。議会の場で市民が胸を張って訴える機会が与えられたのだ。議員に思いが届かず、ままならぬロビー活動に歯がゆく感じたことはこれまで当然あったが、それでもわたしの町の議会は随分開かれていると感じた。あとは、本会議最終日（25日）での採択を期待している。

衆議院選挙の結果が昨日出た。皆きっと、それぞれに思いを抱えていることだろう。

まず、不思議で仕方がない。何がって、投票率の低さだ。戦後最低の投票率らしい。福島原発事故を経験したあとの初めての選挙でこれなのか？投票しないのは白紙委任状を出すのと同じだ。TPP 交渉に参加しようがしまいが、どれだけ消費税が上がろうが上がるまいが、はたまた原発がもう一度爆発しようが、もうどうでもいいと言ってるようなものなのに、どうしてなんだ？わたしは、渾身の1票を入れる責任ある大人の姿を子どもに伝えたくて、子を連れて投票に行った。

そして選挙結果は、脱原発を願う市民にとって、この上なく重い結果となった。これが民衆の望んだ結果なのか？投票率も結果も、わたしはまだ自分の中で消化しきれずにいる。

ただ言えることは、どうであれ、これが「私たち」の選んだ政治家なのだ。だから、受け止めようと思う。これでこれからをやっていくより他ないのだから。

震災からの1年9か月、原発のない風景を夢見て、それこそ髪ふり乱してやってきた。その中で、社会システムが変わらないことには、私たちが声かれるまで叫ぼうがその声は一向に反映されないことを感じてきた。システムを変えるには法として成立させるしかない。脱原発も法として成り立たなければ永遠に実現はしない。法を制定するのは政治家だから、やはり政治への働きかけなしにはどうにもならないことを痛感する。議員と話をすることなど震災前までなかったし、正直苦手な面倒な思いはあるが、そこは避けて通れないと感じる。

だからまず、今回の衆議院選挙で自分が住む町の選挙区から選ばれた国会議員には会いに行こうと思う。その時にはできるだけ仲間を集めて大勢で行き、国民は期待しているし、ちゃんと見ているぞということを知らせたい。

地方議会にはこの間何度となく陳情や請願を出してきて、議員との懇談もお願いしてきた。慣れぬことゆえ、初めは随分小さく硬くなりながら、声も震えながら、それでも子どもたちの未来を案ずる思いで懸命に訴えた。でも、そんな構えるようなことではないのだ。回を重ねればそれなりに慣れて、さほど緊張もしなくなってきた。

議会という世界を、市民の暮らしから遠ざけてはいけぬ。議員は私たちの代表なのだから、市民の思いを伝えるべきだ。そこに遠慮など必要ない。そう考えて自らを奮い立たせ、これからは議会への働きかけをやっていかねばと思う。それが市民の「権利と責任」だろう。

日本の議会制民主主義は機能しているとは言えない。政治家と話ができる関係を築き、これまで眠りこけていた民主主義を私たちの手で目覚めさせたいと願う。

衆議院選挙を終えた今、これまで以上の真剣勝負が始まっている。